

早期肥大性に優れるカンショ「ベニアズマフリー系88」		
<p>[要約]</p> <p>カンショ「ベニアズマフリー系88」はB-27に比べて早期肥大性に優れ、早掘り、普通掘りとも多収で、A品率はやや高く、蒸しいもの食味は同等以上である。</p>		
農業総合センター生物工学研究所・農業研究所	成果区分	普及(普及)

1. 背景・ねらい

カンショの生産現場ではウイルスフリー苗が利用されているが、フリー系統によって収量やA品率、食味、貯蔵性に差がある。そこで、現在利用されているものより、高品質、多収の系統を育成、選抜する。

2. 成果の内容・特徴

- 1)平成12年に早期肥大性に優れる個体を選抜し、茎頂培養を行い再生個体を獲得した。平成14年に圃場選抜を行い、収量、品質等に優れた系統を選抜し、「ベニアズマフリー系88」(以下「フリー系88」)と命名した。
- 2)「フリー系88」の上いも重(収量)は早掘り、普通掘りとも「B-27」やK社の系統と比較して多い。上いも1個重は「B-27」と比較して重い(表1)。
- 3)「フリー系88」のM+L品収量は普通掘りで「B-27」と比較してやや多く、K社の系統と比較して多い(表1)。
- 4)「フリー系88」のA品率は早掘り、普通掘りとも「B-27」と比較してやや高く、K社の系統と比較して高い(表1)。
- 5)「フリー系88」の蒸しいもの食味総合評価は「B-27」と比較して早掘りで同等、普通掘りで同等からやや優れる。K社の系統と比較して早掘り、普通掘りともやや優れる。(表2)

3. 成果の活用面・留意点

- 1)「フリー系88」は肥大性が良く、特に淡色黒ボク土壌での栽培に適するが、表層腐植質黒ボク土など肥沃な圃場では、過肥大や条溝、裂開の発生を避けるために、施肥量、栽植密度等に留意する。
- 2)貯蔵性に関しては検討中である。
- 3)系統の選定に当たっては、普及センターが設置した現地実証圃の成績も併せて参考にすることが望ましい。

4. 具体的データ

表1 「ベニアズマ」 ウイルスフリー系統の収量・品質

試験地・掘り取り時期	系統	上いも重 (kg/a)	標準比 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数 (個)	A品率 (%)	M+L品収量 (kg/a)
所内早掘り	フリー系88	170	110	141	3.0	75	42
	標)B-27	155	100	136	2.9	73	50
	比)K社系統	142	93	153	2.3	58	64
所内普通掘り	フリー系88	348	104	247	3.7	63	233
	標)B-27	334	100	211	4.0	58	210
	比)K社系統	299	89	259	3.0	49	166
現地普通掘り	フリー系88	365	114	249	3.7	49	237
	標)B-27	321	100	184	4.4	33	187
	比)K社系統	310	97	182	4.3	40	151

注1) 所内早掘りのデータはH18、19に生工研が実施した試験結果の平均

所内普通掘りのデータはH18に生工研、H19に農研が実施した試験結果の平均

現地のデータはH19に農研が実施した試験結果である

注2) 所内試験は水戸市(表層腐植質黒ボク土)、現地試験は行方市(淡色黒ボク土)で実施

注3) 挿苗:5月下旬、掘り取り:早掘り8月下旬、普通掘り10月中旬、

栽植密度:400株/aでのデータである

注4) 上いもは1個50g以上のいもとする

表2 「ベニアズマ」 ウイルスフリー系統の食味評価

掘り取り時期	系統	肉色 (-不良~良+)	甘味 (-少~多+)	肉質 (-粘~粉+)	総合 (-不良~良+)
早掘り	フリー系88	-0.19	0.10	-1.00	-0.06
	標)B-27	0.00	0.00	0.00	0.00
	比)K社系統	0.13	-0.30	-0.46	-0.36
普通掘り	フリー系88	0.29	0.06	0.32	0.21
	標)B-27	0.00	0.00	0.00	0.00
	比)K社系統	0.33	-0.15	0.05	-0.02

注1) H18、19に生工研が実施した試験の結果である

注2) 農業研究所所内で収穫したいもを供試した

注3) 農業研究所職員の試食による官能評価である

注4) 数値はB-27を標準(0.00)としたときの評価を示す

注5) 総合は肉色、甘味、肉質などを含む総合的な評価である

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- ・ サツマイモベニアズマウイルスフリー優良系統の育成
平成13~17年・生工研普通作育種研究室
- ・ サツマイモべにまさりウイルスフリー優良系統の育成
平成18~19年・生工研普通作育種研究室
- ・ 落花生・かんしょ品種選定と主要畑作物の栽培法確立試験
平成19~20年・農研作物研究室